

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年7月13日
タイトル	「くわい」の植付けを体験したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年6月27日（月）福山市立新涯小学校5年生約137名が、新涯小学校の近くのほ場で「くわい」の植付け体験をしましたので、その様子取材しました。

新涯小学校5年生は、一年を通じて、地域の特産物である「くわい」についての学習に取り組んでおられ、先日は第1弾として「くわい」の出前授業をされました。今回は第2弾として、新涯町にある水土里ネット福山組合員の種本守雄さんのほ場で「くわい」の植付け体験をしました。

新涯小学校からみんなで歩いて、ほ場の近くの公園に集まりました。先生から「種本さんが出荷されるほ場で、くわいを植えさせていただきます。自分達が植えたくわいも出荷されるかもしれない、そういう場所を任せていただいたという責任感を持って植えましょう。」と話されました。



種本さんから、くわいの植付けの方法を教えてくださいました。くわいは芽が5cmほど伸びていて、芽が土の中に埋まってしまわないように注意して植えましょうと話されました。

3チームに分かれ、ほ場まで1チームごと歩いて移動しすぐに植付けを始めました。



くわいの苗を四つ持って田んぼへ入ります。なかなか一步がでない子ども達。そうっと足を入れて、一步ずつしっかりと踏みしめて植える場所まで歩いていきます。印のところまでくると一つずつ丁寧に植えていました。みんな真剣な顔で植えていました。

植え終えたら田んぼから出て、用水路で泥のついた足や手を洗いました。上手に足の裏や甲を使って泥を落としていました。

用水路は勝手のよい足洗い場にもなりますね！

全員植付けを終え、元の公園へ戻り「終わりの会」をしました。子ども達から種本さんに大きな声でお礼を伝えました。種本さんが「みんな初めて植えたのに、思った以上に上手に植えてくれました。」と嬉しそうに話されました。

最後に、子ども達に水土里ネット福山から今回の農業体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に農業用水路の防災について話をし、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。みんな真剣な眼差しで聞いてくれました。



くわいの成長を見守ってと話されました！

身近な用水路、登下校などの時にも気を付けてね！

今年度も新涯小学校では、ほ場でくわいの植付け体験と校庭のミニたんぼへ植付け、収穫といった昔ながらの手作業による「くわい」栽培の農業体験をします。「くわい委員」に選ばれた子ども達が、小学校の校庭でもくわいを植えて半年間くわいの成長を観察するそうです。

「くわい」の植付けをしていると、近所の方が何人も立ち止まって見ておられました。地域の特産物でもあるくわいを子ども達が学習していることをお話すると「子ども達が大きくなったら、いい思い出になるわ。ふるさとの特産のくわいの勉強をしてくれるんじやな。嬉しいなあ。」と目を細めておられました。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の取材を通じ、21世紀土地改良区創造運動を展開することで、子ども達と水土里ネット福山の組合員や地域住民との交流を図り、農業の大切さやふるさとの誇りを発信してまいります。